福島地方裁判所

登場人物

被告人
車掌
傍聴者たち
裁判官
弁護人
検察官
看守２名

新幹線の中
　　車掌が乗客の切符を確認している。
　　振り返りながら車両を移動する被告人。
　　向かい側から車内販売のカートが来る。
車内販売「お弁当、サンドイッチ、コーヒーはいかがでしょうかー？」
　　カートをやり過ごし、デッキにたたずむ被告人。

審議待合所
　　数人の傍聴者が雑談している。

「グリーン車指定席との差額５１４０円だからグランクラスを選択しました、だって」
「あはははは」
「後でかえってくるけど」
「正当な料金すら払ってないのに図々しいよな」
「だから突っ込みどころ満載だから。持ってた回数券は？ってなったら車掌に絶対に出て行けって言われっから、その時にグランクラスの切符持っててそれ使用してるって言ったら」
「はい」
「しらべるねえー」
「生活保護をもう一切与えない」
「ああ」
「出てきてからですよ出てきてから」
「刑務所入ってれば楽できるんだから」
「来年からね」
「それはあいつのためだよ」
「ああいうやつは」
「いやだね」
「ほんとにいや」
「はー」
「性犯罪者を社会に返すかどうかって問題と同じだよ」
「マークとかつけとけば」
「つぎからちょっと」
「きたって！」
「山崎、山崎っ、またおまえか！って」
「宇都宮の」

「ヒモじゃない？」
「あいつ結局帰ってこないよ」
「那須塩原からも乗ってたんですって」
「え？！」
「今回？！」
「まじ？まじで？」

「か、別のやつと一緒に行って那須塩原で合流して、、、」
「福島から乗ったやつがもう一人いて、、、」

「今回は１０時？」
「１３時」
「あ、そこでのりかえられるんだ」

「俺じゃないけど、あん時は江口さんが見つけて」
「購入してるのがおかしいって、江口さんがまずそいつを入れた、俺その後購入のあれ打って、
　時間からして宇都宮の金額しか見てないっすけど」
「だから考え方としては仲間がいて、那須塩原で乗ってきて、そいつは乗車証明もらって入ってきてる」
「宇都宮から乗ってきた時は、なくしたっていうんですよ」
「はー」
「もう一回買ってもらいます、っていうとキレるんですよ。金持ってねえのにどうすんだよ、２０時半のバスに乗るのに乗り遅れたらどうするんだよって」
「この間もそれでやってきて、本人じゃないか、同じやつじゃないかってなって、警察呼んで」

時計を見て立ち上がり、みな法廷内に移動する。

法廷
被告人入廷。
手錠をされている。
二人の看守が両脇についている。
席に連れて行かれると、手錠をはずされ着席を促される。

裁判長入廷。全員起立、礼、着席。
裁判官「はい、それでは時間になりました。再開します。えっとーあれ、被告人の方からは５月１７日付で前回の罪状認否は否認で追認票が出てますけども、これは今の法廷でこのとおり審議したということでよろしいですかね」
被告人「はい」
裁判官「はいっえー、それでまあ今後の進行なんですが、検察官どうされますか」
検察官「はい、留置担当の警察官と調べ担当の警察官の証人尋問を請求いたします」
裁判官「じゃああれですかね、期日外でおさりますかね。じゃ弁護人も次回はその取り調べということでよろしいですか？」
弁護人「はい」
裁判官「はい、じゃあ、期日外で請求していただいて、あのー最後決定して、まあ次回はまあ取り調べ、まあ今日いろいろと一連の話してきましたから」
被告人「あの、わかるように言ってもらえますか？」
裁判官「次回は、あのー被告人の取り調べを担当した警察官から、取り調べの時の状況につい

てお話を聞く、と」
弁護人「はい」
裁判官「で、あと２月１２日の話しが出てましたよね」

被告人「はい」
裁判官「の関係で、留置の警察官を、まあこれから期日までの間に検察官が証人請求するので、
で、それを弁護人が聞いた上で、次回、取り調べるということをします」
被告人「はい」
裁判官「えーとその次回期日ですが７月７日の午後１時半で双方よかったでしょうか」
検察官、弁護人「はい」
裁判官「それでは７月７日の午後１時半からまたこの法廷で審議を行います。
で、被告人、いいですかね、あの、必ずまたー７月７日の午後１時半、審議行いますから、この法廷に来るようにしてください」

被告人、うなづく。

裁判官「はい、それでは今日の審議はおわります」

被告人、再び手錠をされる。
裁判官、検察官、傍聴人は先に法廷をあとにする。
被告人、入ってきたのと同じドアから連れて行かれる。
弁護人は傍聴人側の出口から去る。

おわり